景況感悪化　2四半期連続

先行きは改善、自動車部品プラスへ

中小企業景気動向調査（4～6月期）

当金庫が行った4～6月期の「中小企業景気動向調査」の結果がまとまった。

業況

DIが悪化、2四半期連続

企業の景況感を表す業況判断DI（業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値）は、全産業で0・6となった。1～3月期（7・8）に比べ7・2ポイント低下し、業況は悪化した。悪化は2四半期連続。原油価格の高騰や長引く人手不足が影響したとみられる。

製造業は2・3ポイント悪化して8・2。2四半期連続の悪化。

非製造業はマイナス4・8。前回（5・7）に比べ大幅に悪化し、3四半期ぶりに水面下に沈んだ。

―製造業―

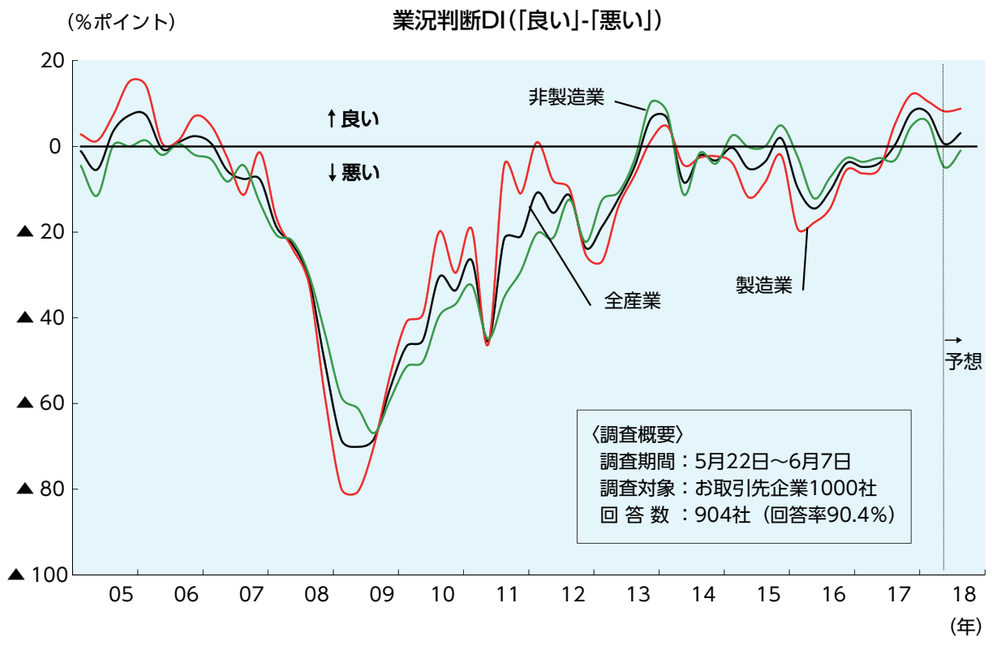
自動車部品はマイナス8・9と、1年ぶりにマイナスとなった。自動車の年度末商戦の反動で受注量が減ったことに加え、人手不足で人件費が増加傾向にあることが響いた模様。下げ幅の28・1は全業種中で最大。

機械器具部品は36・2。総じて好調を維持した。ただ、このところの鋼材価格の高騰で、収益の減少を懸念する声もあった。

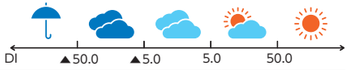
そのほか、窯業・土石、繊維製品、食料品は改善。金属製品、木材・木製品、印刷は悪化した。

―非製造業―

卸売業は前回（0・0）に比べ5・4ポイント悪化し、マイナス5・4となった。農畜産物・水産物卸には改善がみられたが、機械器具卸の悪化が響いた。



〔天気マークの見方〕



業種別天気図（数値は業況判断DI）

業　種	1～3月期（前回）	4～6月期（今回）	7～9月期（予想）	業　種	1～3月期（前回）	4～6月期（今回）	7～9月期（予想）
全産業	7.8	0.6	3.1	印　刷	▲33.4	▲38.5	▲46.1
製造業	10.5	8.2	8.8	食料品	▲16.6	0.0	▲7.1
非製造業	5.7	▲4.8	▲1.0	卸売業	0.0	▲5.4	1.8
自動車部品	19.2	▲8.9	12.1	小売業	▲18.4	▲28.6	▲26.8
機械器具部品	39.7	36.2	27.2	飲食業	▲30.8	▲37.9	▲10.4
金属製品	13.1	2.9	17.1	建設業	17.2	7.4	11.7
窯業・土石	▲36.8	0.0	▲26.3	不動産業	17.2	8.4	5.8
木材・木製品	▲40.0	▲50.0	▲66.6	運輸業	24.1	▲3.1	▲20.0
繊維製品	▲10.0	22.7	0.0	サービス業	11.7	▲1.2	1.1

小売業はマイナス28・6。依然としてDIはマイナス領域にあって、回復の遅れが目立っている。消費マインドの弱含みや仕入価格の上昇も業況悪化の一因とみられる。

飲食業は厳しい状況を強いられている。DIはマイナス37・9。深刻な人手不足も続いている。

建設業は9・8ポイント悪化の7・4。予算執行の端境期にあった公共工事業で悪化が目立つ。

不動産業は前回（17・2）よりも8・8ポイント悪化して8・4となった。悪化は3四半期連続。

運輸業はマイナス3・1。大幅に悪化し、2年ぶりにマイナスに陥った。燃料費の高騰と慢性的な人手不足が影響した。

サービス業は12・9ポイント悪化のマイナス1・2。7四半期ぶりにマイナスに転じた。法人向け・個人向けともに悪化。

見通し

先行き改善、自動車部品プラスへ

業況判断見通しDIは3・1となり、景況感は改善する見込み。製造業は小幅改善。非製造業は3・8ポイントの改善。

業種別にみると、受注量の回復が見込まれる自動車部品はプラスに浮上する見通し。窯業・土石と食料品は再びマイナス。運輸業は燃料価格の先行き懸念が広がりそうで、大幅な悪化が予想されている。

お客様の声

- 変革の時代は技術開発が求められる。更なる人材育成が重要である。（金型製造）
- 先行きの不透明感から消費者の節約志向が進み、お金の使い道が変わってきた。嗜好品である当社の商品に如実に表れている。（酒類卸）
- 若い人材が集まらない。引き合いがあっても人手不足で請けられない状況。（電気通信工事）
- オリンピック関連の工事が本格化するため、職人不足の影響が中部地方でも出てくると思われる。材料価格の値上げも徐々に始まるのではないか。（内装工事業）